

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

ふり 氏 がな 名	ながさわ 長澤 のぶき 伸樹
(研究テーマ名) 樂市樂座令の研究	
(研究活動実績) <p>本研究は「樂市樂座令」「樂市場」を素材として、関連史料の再検討と現地調査から、各地域固有の情勢をふまえた法令・市場の機能と特質を明らかにし、大名権力の流通政策における法令・市場の相対的位置づけと歴史展開の可視化にむけ、中世市場法の悉皆収集とデータベース化を課題とする。</p> <p>上記をふまえ、今年度は①「樂市樂座令」をめぐる研究史整理と課題を具体化した上で、②—1. 近江金森、2. 駿河富士大宮、3. (遠江) 小山の樂市令に関する現地調査ならびに研究報告、論文作成を進め、③これと並行して、全国各地に残る中世市場法の史料収集も随時おこなった。</p> <p>〔論文〕 ①「樂市樂座令研究の軌跡と課題」(『都市文化研究』第16号、2014年3月予定) 〔研究報告〕 ②—2. 「富士大宮樂市令再考」(東北史学会大会、10月13日、於東北大学) 「富士大宮樂市令の再検討」 (大阪歴史学会中世史部会例会、12月6日、於大学コンソーシアム大阪)</p> <p>〔フィールドワーク〕 ②—1. 金森寺内町現地調査、天保7年「金森村絵図」(善立寺蔵) 実見。 2. 富士山本宮浅間大社・門前町現地調査。 3. 小山樂市の立地比定をめぐる現地調査。</p> <p>とくに②—2 では、今川氏の先進性や革新的政策という従来の理解と異なり、「樂市」は在地の要請に基づき、市場の平和調停のみを意図した時限的・政策的用法で、そこに積極的な市町・流通支配をめざす権力側の姿勢は窺えないことを明らかにした。これは地域固有の「樂市」像を示すモデルとしても注目され、今後も同様の観点で再考する必要性が指摘できる。なお今年度は、論文作成をすすめたが年度内の公表に至らず、データベース構築も史料収集段階に留まった。今後の課題としたい。</p>	